

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育(研究))

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	国際協力研究科
-----	------------	----------	---------

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

2. 上記1における顕著な変化のあった取組及び成果の状況、その理由

○顕著な変化のあった観点名 研究成果の状況

研究科として、研究業績を後援会基金（海外出張、出版助成に使用可能）の配分に反映するように取り組んだ。特に、国際的な業績の促進に努めた結果、次のように国際的な業績が増加した。

国際関係論分野では、この分野におけるトップジャーナルの一つ、国際学会 International Studies Association の学会誌 International Political Sociology(業績番号1)に論文が掲載されている。

開発経済分野においてトップクラスの評価を受け、国際的に権威のある国際的なレフェリー・ジャーナルである Land Economics(研究業績2), Journal of Development Studies(業績番号3), Quarterly Review of Economics and Finance(業績番号4)に論文が掲載され、掲載時期が最近である新しい論文にもかかわらず、すでに引用されている。

政治学の分野では、レフェリー付きのスペイン語の国際雑誌、Mexico y la Cuenca del Pacifico(業績番号6)に論文が掲載されている。暫定評価時に提出した「研究科を代表する研究業績リスト」では、国際レフェリー雑誌の論文は1本であったが、今回は5本へと顕著に増加している。

それ以外にも、2009年に英語で出版された開発経済分野の共編著 Economic Transition in Myanmar after 1988: Market Economy versus State Control, NUS Press, Singapore(業績番号5)が国際雑誌 Developing Economies(Vol. 47, No. 4, December 2009)においてミャンマーを代表する経済学者 Mya Thein 氏により書評を受けており、欧米圏やミャンマー国内の既存研究にない深度と包括性を持っていると評価された。

国際法学の分野では、Ashgate 社から部分執筆をしている 2008年に英語で出版された著書 “The Legitimate Use of Military Force” が国際雑誌 (Peter Rowe 氏 Defence & Security Analysis, Vol. 24, Issue4, December 2008, pp. 421-424, 及び Etudes Internationales, Vol140, No. 1, 2009, pp. 136-138) において書評を受け、他研究者の著書などで引用されている。開発法学の分野においては、2007年に開かれた国際学術会議 Beijing Forum 2007 に報告された論文の中から、コーポレート・ガバナンス部門の優秀論文 (50 論文の中から 1 本選抜) として選抜され 2008 年に北京大学出版会から英語で出版されている (業績番号 8)。このように、暫定評価以降、多くの分野において国際的に評価を受けた業績を多く出した。

国内においても、「国際開発研究」(国際開発学会、「日本の貧困国援助の比較論的考察—援助レジームの変遷をめぐって」2009年)、「アジア研究」(アジア政経学会、「東南アジアのコーポレート・ファイナンスの規定構造について：タイ・マレーシアを観察事例に」2008年)「国際法外交雑誌」(国際法学会、「環境条約不遵守手続の帰結と条約法」2008年)「宗教研究」(日本宗教学会)などの学会の機関誌に論文が掲載され、「レヴァイアサン」(「ポピュリズムの中の歴史認識：日韓の事例を中心に」2008年など)といったレフェリー雑誌にも論文が掲載されている。また、新聞などの主要メディアにおいて書評を受けた『韓国現代史』(中公新書、2008年：毎日新聞、朝日新聞、日本経済新聞、読売新聞等)(業績番号9)、『民主化の韓国政治』(名古屋大学出版会、2008年：毎日新聞、朝日新聞、論座、週刊エコノミスト等)(業績番号10)といった社会・経済・文化的意義のある著書も出版している。